

クロスロード

2006年11月号 特集“ジェンダー”の視点と海外ボランティア

JICAの取り組み

身近にある情報を利用して“ジェンダー”の視点を活動に

女性の社会的地位の向上などを目指して活動する青年海外協力隊やシニア海外ボランティアなどに対して、派遣する側のJICAはどのようなサポートをしているのでしょうか。

取材・文＝滝澤航爾(本誌)

Text by Koji Takizawa

国際社会において“ジェンダー平等”がますます重視されているなかで、JICAも「開発事業に“ジェンダーの視点”をどう取り入れるか」という課題に取り組んでいます。その実施にあたっては、全体調整機関として設置されたジェンダー平等推進チームのもと、各部署長が責任者に、各部署で男女ひとりずつが担当者となる体制がとられています。

協力隊事業ではこれまでも、女性の能力強化を主な課題とする活動事例は少なくありません。たとえば看護師や助産師、保健師、栄養士などの職種でリプロダクティブ・ヘルス分野にかかわる例、あるいは家政、手工芸、婦人子供服、野菜などの職種で女性の収入向上の支援にかかわる例、さらに村落開発普及員、公衆衛生、感染症対策などの職種で生活改善の支援にかかわる例などがあげられます。また、エイズ対策などのように、活動の課題を達成するうえでジェンダーの問題が避けて通れない職種もあります。

以上の職種に限らず、「協力隊のすべての職種において、ジェンダーの問題が活動課題に複雑に絡んでいる」といわれることもあります。また、活動に直接かかわりがない場面でも、協力隊員が任地のジェンダー問題に果たしうる役割はあるかもしれません。

こうしたことから、“ジェンダーの視点”を持って活動にあたるのが隊員にとっても重要となってきますが、JICAでは、そのためのいくつかのサポートを行っています。

まず、派遣前訓練においては、職種を問わずに受講できる「ジェンダーと開発」の講座を設置しています。この講座では、ジェンダーの基礎的事項を学び、活動にジェンダーの視点を取り入れる力を養うことができます。さらに一部の職種においては、技術補完研修のなかで、ジェンダー問題と当該職種との関連性について学ぶ機会も設けられています。

ジェンダーの具体的な状況は国によってさまざまですが、その詳細については、各在外事務所が作成する「国別事業実施計画」や、ジェンダー平等推進チームがとりまとめる「国別ジェンダー情報」(JICAホームページに掲載)によって知ることができます。また、各国で活動中のほかのボランティアや専門家などから、ジェンダーについての情報を入手したり、相談したりすることもできます。

このほか、最近では隊員の活動報告書にジェンダーに関しての所見を記述する欄を設けていますので、これによってジェンダーに対する隊員の意識がさらに高まり、各国のジェンダー情報が蓄積されていくことを期待しています。

以上のような身近にある機会や情報を利用して、“ジェンダーの視点”を活動に取り入れることで、隊員の方々が現地の実情に即した活動が展開できるのではないかと考えています。

JICAのジェンダーに関する取り組みの詳細についてはホームページをご参照ください。

<http://www.jica.go.jp/infosite/issues/gender/index.html>

[【サイトポリシー】](#) [【プライバシーポリシー】](#) [【情報公開】](#)

All Rights Reserved, Copyright(c)1995 Japan International Cooperation Agency.